

平成十六年十月二十四日(日)

第三三四回 史跡めぐり

歴史と文化の

ゆ跡の町

和利を訪ねる

NPO法人 越谷市郷土研究会



歴史と文化の 史跡の町 足利を訪ねる

日 時 平成十六年十月二十四日（日）

集 合 越谷駅前 午前八時二十五分

コース 越谷駅 →（東武線）→ 足利駅 → 足利市美術館 →

まちなか遊学館 → 足利学校 → 鎬阿寺 → 法玄寺

→ 長林寺 → 足利駅（東武線）→ 越谷駅（解散）

参加費 300円

（交通費、入館料、資料代、保険料を含む）

昼 食 各自持参

案内者 理事 菅波昌夫



●足利市

栃木県の南西部に位置し、人口十六萬七千人、面積百七十八平方キロメートル。東京から北へ八十キロメートル。中世末以来、絹織物の産地として知られている。また、「東の小京都」ともよばれ日本最古の学校といわれている中世の高等教育機関、「坂東の大学」と称されている足利学校を始め数多くの文化遺産と、山と川と緑の美しく豊かな自然に恵まれた歴史と伝統のあるまちです。

●足利の地名－由来

“足”とは“利”とは、何を意味しているのでしょうか。地名辞典等を見ても、明確な答えは解らない。この足利に根を下ろした氏族が、藤原氏郷六世の子孫渕名成行で、天喜二（一〇五四）年兩崖山に城を築き、足利大夫と称し、この地を領有するが、家綱、俊綱、忠綱と続いたのち平氏と共に滅びた。「吾妻鏡」に藤原俊綱は、数十町を納め郡内に確固たる地位を占めていたと書かれている。鎌倉時代にはいると、源義家を祖とする源姓足利氏の領地となり、義国、義康、義兼と続き以降六代目の孫が、室町幕府を開いた一代の英傑足利尊氏である。

●足利市立美術館

平成六年四月に開館。市街地の中心部に位置し、市の管理運営する集合住宅と併設されているのが特徴で、人々が日常生活の中で美術と身近にふれあい、何かを考え、豊かな感性を育んでいく、そんな文化の高揚と人づくりのコミュニケーションをめざしている。尚、今年は満十周年記念として、足利学校展が開催される。

◆足利学校展

本展は「日本最古の学校、学びの心と、その流れ」がテーマで①足利学校の歴史と学問②美術③保護活動④平成の復原の四つを柱としてわかりやすく紹介します。現在足利学校に展示されているもの以外宝の文化財を始め、足利学校所蔵品およそ一五〇点を一挙に公開するものです。これを見学しま

す。

● まちなか遊学館

足利の歴史や文化に親しみ、楽しみ、学んでもらうための施設です。近代足利は織物の生産で隆盛を極め、色々な機種を発明し中でも八丁撚糸機（足利型）や足踏み機械など実際に使われていた織機のほか足利銘仙を始め、織物関係の資料を展示し、また、明治中期の織物技術の先駆者である近藤徳太郎氏（足利工業高等学校の初代校長）の業績をも紹介しています。

● 足利学校

日本最古の総合大学校であると言われば、フランシスコ・ザビエルにより、「日本国中最も大にして最も有名な坂東の大学」と海外に紹介されています。その創建については、奈良時代の国学（奈良・平安時代に國ごとにもうけられ、郡司や地方豪族子弟のために役人の養成を行った学校。これに対して中央には「大学（寮）」がおかれた）の遺制説、平安時代の小野篁説、鎌倉時代の足利義兼説などがあります、歴史が明らかにされるのは、室町時代の永享十一（一四三九）年に関東管領上杉憲実によつて荒廃した学校を修復。現在国宝に指定されている書籍が寄進され、鎌倉円覚寺から易学の権威である快元を招いて初代庠主（学長）制度を設け、また、「学規三条」を定めた。これは校則とも言うべきもので「足利学校で学ぶべき学問の内容や規則守らない学生の在校を許さない」「修学に不熱心な学生の在学を許さない」「学生は入学に際して僧侶の身分となる」の三条です。



儒学・易学・兵学・あるいは医学・天文学など実用主義的な学問が重視されました。

天文年間（一五三二～一五五四）には「学徒三千」といわれるほど学問の一大中心地として栄えました。徳川家康の信任厚く、上野寛永寺の開基ともなった天海僧正もここに学びました。江戸時代の末期には「坂東の大学」の役割は終了し、藩校へと移行し、明治五年を持って廃校になりました。

◆聖廟（孔子廟）

寛文八（一六六八）年徳川幕府四代将軍家綱の時に造営されたもので中国明時代（一三六八～一六四四）の聖廟を模したものと伝えられている。

◆方丈

学生の講義や学校行事またお客様のための座敷として利用されたところ。

◆庫裡

学校の台所。食堂など日常生活が行われたところ。

◆書院

庠主の書斎。庠主から学生に個人教授（秘伝）が行われたところ。

◆衆寮

学生が書物を写本したり、生活したところ。

◆杏壇門

杏壇とは孔子が学問を教え初めの頃の場が語源で、本来は学問を教授するところ。いわゆる学問所で教室の教壇の基とされている。寛文八年の創建ですが、明治二十五年火事の飛び火により屋根・門扉が焼け、三十年代に再建したもの。

◆釈奠

古代中国では先聖先師の祭礼の総称。後漢以後、孔子を祀る大典の特称となつた。日本では大宝一（七〇一）年二月丁巳に行われたのが最初。室町時代に廃絶、江戸幕府・諸藩が再興、足利学校、湯島の聖堂、岡山県備前市の閑谷学校、佐賀県多久市の聖堂などでは今も続けられている。足利学校の釈奠は永享年間初代庠主快元の時に孔子とその高弟を祭る儀式が起源とされている。足利学校では毎年十

一月二十三日に行われる。

● 鐘阿寺

今から約八〇〇年前の建久七年（一一九六）鎌倉時代に足利義兼公により開創された真言宗の古刹である。足利市の中間に位置し境内地一萬二千三百坪、寺領六十石、実収五百石で、山号を金剛山、院号を仁王院、坊号を法華坊、寺号を鐘阿寺といい、通称は大日堂或いは堀内大御堂といわれている。現在真言宗大日派本山として、一貫して真言密教を歩む信徒寺である。開基義兼公は足利初代義康の三男で源頼朝の従弟。しかも室は北条時政の娘、正子の妹、時子で頼朝とは義兄弟でもあり鎌倉幕府の創建に多いに力を尽くした。晩年剃髪入道し鐘阿と号す。鐘・阿とは、それぞれ金剛・胎藏両界の大日如來を表す種字（密教で仏・菩薩を標示する梵字）。平安時代末期源頼朝が下野守の時別荘として建てた、その子義国が初めてここに住み、義国の子義康が足利氏を名乗った。文治五年（一一八九）義兼は邸内に持仏堂を建てた。建久七年（一一九六）夫人の時子が死去すると持仏堂を鐘阿寺と改め氏寺とした。南北両朝の天皇の帰依を受け、後醍醐・後光厳天皇より勅額を賜っている。

鐘阿寺
山門（樓門）

鐘阿寺
本堂（大御堂）

鐘阿寺
経蔵（一切経堂）



◆ 楼門（県指定文化財）

現在の建物は、永禄七年（一五六四）足利幕府十三代將軍義輝が再建した。將軍義輝は部下の三好義継・松永久秀の謀反で翌永禄八年に殺された。

楼門は俗に仁王門ともいい両側の仁王尊（金剛力士立像）の阿形の力士像の高さ三・七二メートル。吽形の力士像の高さ三・六九メートル。屋根の菊の御紋章は勅願所として花園天皇より足利貞氏が受けたしるし。

◆ 鐘樓（国指定重文）

建久七年（一一九六）開基足利義兼が本堂に次いで創建した。宗の建築様式で、鎌倉時代の飾り氣のない禪宗建築の代表的なものといわれる。その形状は簡古、手法は稚朴で関東以北では大変珍しい。鐘は江戸時代、元禄期の再鋲（佐野市の天明製）であるが第二次大戦中も供出を免れ現在に至っている。

◆ 御靈殿（県指定文化財）

鎌倉時代後期の創建といわれているが、現在の建物は、徳川十一代將軍家斉の寄進により再建された。足利大權現と称し、本殿に七社神を祀り、拝殿に足利幕府十五代將軍義昭の木像を安置している。奥に源氏の祖、八幡太郎義家の子、義國とその子、義康（足利氏の祖）墓がある。

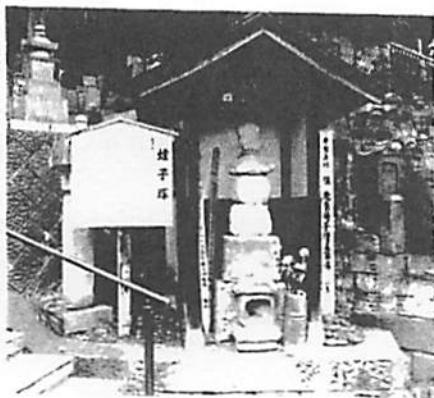
◆ 経蔵（国指定重文）

寺伝では開基、足利義兼の創建となつていて、現存の経堂は応永十四年（一四〇七）関東管領足利満兼により再建された。経堂は、真言宗や天台宗の大寺にはよくあるがこれだけ大きな経堂は珍しい。内部に八角の輪蔵（経棚）があり一切経二千余巻（黄檗板）を蔵している。その周辺に足利家歴代の像が安置されている。昭和五十九年、国重要文化財に指定された。

◆ 蛭子堂（足利市重要文化財）

時姫堂とも称されている。当山開基足利義兼の妻、北条時子（源頼朝の妻、北条政子の妹）を祀る。寺伝では自害したと言われそれに纏わる逆さ藤天神、足利又太郎忠綱の遁走、自刃の哀話は足利七不思議の伝説の物語として残っている。

妊婦がこの堂にお詣りすれば、「栗のいがより栗が軽くもげるがごとく、安らかなお産の効き目あり」といわれ、昔から信仰されている。この風習は現在も続いている。本尊は栗のイガを手に持っている蛭子女尊。



●法玄寺

浄土宗、山号を帝釈山、院号を智願院、寺号を法玄寺という。足利氏二代目義兼の長男義純が母時子の菩提のため創建した。寛文四年（一六六四）本堂が焼失したために智光寺から本尊阿弥陀如来立像（木造）をお迎したが明治十八年（一八八五）の火災により本尊も焼失した。東光寺より専心僧都作といわれる阿弥陀如来の木彫り立像（高さ三尺）をお迎え本尊とし、現在に至っている。義純は一時途絶えていた畠山氏（北条氏）により滅ぼされた（を名乗り源姓畠山氏の祖となる。当時畠山重忠は、「帝釈天」の化身であるとの説があつたので山号を帝釈天、時子の法号である智願寺殿より院号をとり智願院、義純は死後法玄大弾定門の法号が贈られた。これより法玄寺という寺号が採られたものである。

◆北条時子姫の五輪塔

台石から高さ二メートル余の凝灰岩製で鎌倉中期以前に造られたといはれる時子の墓がある。鎌倉幕府初代の執權北条時政の娘。足利義兼の正室です。

◆蛭子女塚

北条時子が郊外で侍女藤野の汲む水を飲んだところ、日一日と腹が膨らみだした。折しも館に滞在していた足利又太郎忠綱と藤野が通じたのを、時子と忠綱が密通せりと、偽りの報告を義兼にしたため義兼に疑われ、その疑いを晴らすため、時子は「死後我が体を改めよ」と遺言をして

建久七年（一一九六）六月自害した。死後遺体を調べたところ腹部に蛭が充満しているのを発見、以前郊外に遊んだ折飲んだと思われる水に原因があったと推定され、義兼多いに驚き藤野を極刑に処し、時子の遺体を当山の地に懇ろに葬つたという。

◆小林十郎左衛門尉並びに彦五郎父子の墓塔

江戸時代初期に、足利の代官であつた小林父子は五箇用水を完成させ、田地の開発により、水不足を解消して近郊の稻作を飛躍的に増加させた。十郎左衛門は承応四年（一六五五）逝去した、当山中興の功労者と言うことで「法玄院殿心誓宗安大信士」の戒名を、息子の彦五郎は万治元年（一六五八）に逝去し「松林院殿天心良白大禪定門」の戒名をそれぞれ贈られた。墓塔の形状と大きさに僅かな違いがあるが、保存状態も良く江戸時代の石塔としては立派である。

●長林寺

文安五年（一四四八）足利の領主長尾但馬守景人によつて創建された竜澤寺に始まる。長尾景人は福井の竜興寺より大見禪龍禪師を足利の長雲寺に招き、寺名を滝澤寺と改めたのに始まる。曹洞宗。享禄二年（一五二九）景人の跡を繼いだ三代目景長は寺の改修をすると共に寺名を滝沢山長隣寺後に長林寺と改めている。元禄時代（一六八八～一七〇三）に伽藍の整備をし、修行道場として、別格地になり明治維新まで人材養成の道場としての機能を果たしていた。

寺宝は大見禪師の用いたとつたえられている「木印」、鎌倉彫りの牡丹桃実文「笈」、応永二十三年（一四一六）鋳造年の梵鐘。



◆足利長尾氏

初代足利景人は岩井山（現岩井町）に勧農城を造りそこにはいった。三代目景長は絵画を良くし、足利学校の興隆に尽力した文武両道の人であった。足利長尾氏は、次第に戦国大名化し、越後長尾氏や、佐野氏とも戦いつつ、勢力を伸ばした。天正十八年景人から六代目の頭長は北条方に味方し豊臣方に捕えられ茨城の佐竹氏に預けられた後没する。景人が足利に土着してから百二十四年に及ぶ長尾氏の支配は終わり、徳川家康が替わって支配することになった。

主な参考資料

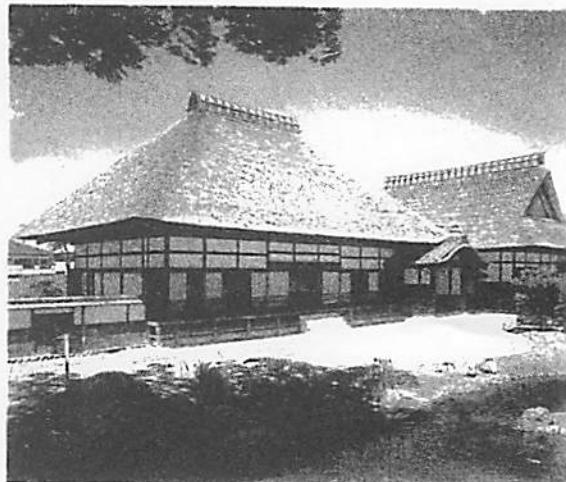
栃木県の歴史散歩	山川出版社
足利学校	足利教育委員会
鎌阿寺	" "
足利市立美術館	帝釈山
法玄寺の歴史	法玄寺
長林寺の歴史	大祥山
世界大百科事典	長林寺
血の抗争史	平凡社
足利将軍家	新人物往来社

孔子廟（聖廟）

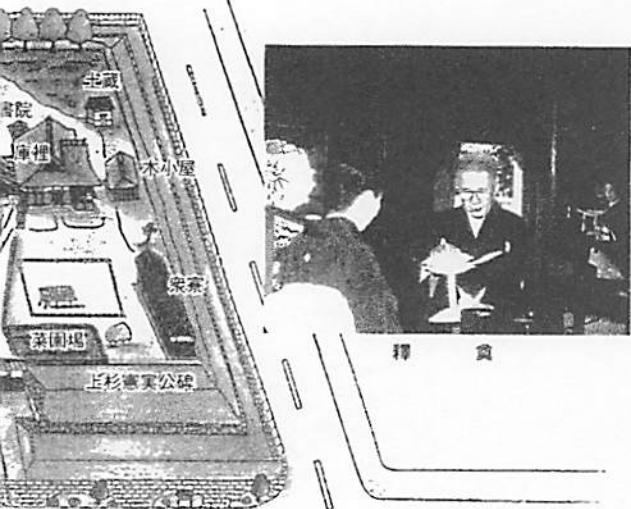
寛文八（二六六八）年徳川幕府四代将軍家綱の時に造営されたもので、中国明時代の聖廟を模したものと伝えられています。

釋奠

「釋奠」は儒学の祖である孔子と、その弟子をまつる儀式で、この言葉には「供え物を置く」という意味があります。現在、史跡足利学校、東京の湯島聖堂、岡山県倉敷市の閑谷学校、佐賀県多久市の聖廟などで行われています。
*足利学校では毎年十一月二十三日に行われます。



復原された方丈、庫裡

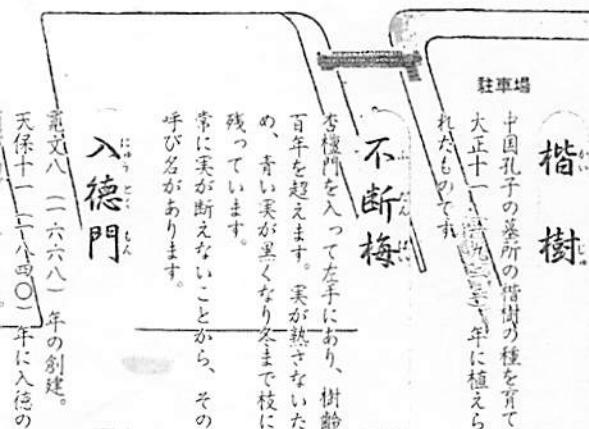


學生の講義や学校行事、また来客のための座敷として使用されたところです。

庫裡

庫主の書院。庫主の接客や、学生に個人教授が行われたところです。

書院



読めない字や意味の解らない言葉などを、紙に書いてこの松の枝に結んでおくと、翌日にはふりがなや注釈がついていたことから、「かなふり松」と呼ばれるようになつたと伝えられています。第七世岸主九華のころの物語（伝説）です。

字降松



字降松

楷樹

中国孔子の墓所の楷樹の種を育て、大正十一年（一九二二年）年に植えられたものであります。

不斷梅

李檜門を入れて左手にあり、樹齢百年を超えます。実が熟さないと青い実が黒くなり冬まで枝に残っています。常に実が断えないことから、その呼び名があります。

入徳門

寛文八（二六六八）年の創建。
天保十一（一八三〇）年に入徳



書院から孔子廟を望む

衆寮

学生が書物を書き写したり、生活したりしたところです。

木小屋

薪木や農具置き場、漬物などの食料を保管した場所です。

裏門

学生や一般の人の通用門として使用されていました。

庭園

池と築山からなる築山泉水式庭園。南庭園は鶴がはばたくように見える入り組んだ水際、北庭園は籠のように見える水際となっています。

平成二年(一九九〇)年に復原したものです。

遺蹟図書館

足利学校が廃校になった以後、明治三十六(一九〇三)年に遺蹟図書館が開設され、書物を継承し現在に引き継がれています。

現在の建物は大正四(一九一五)年に建てられ、市重要文化財に指定されています。

収蔵庫

国宝の典籍などを収納しておいため、昭和四十二年に建てられました。

宋時代の漢籍のほか、元、朝鮮本や我が国の古写本などの典籍が二千冊あります。

重要文化財 八種 九十八冊



夕暮の足利学校

学校門

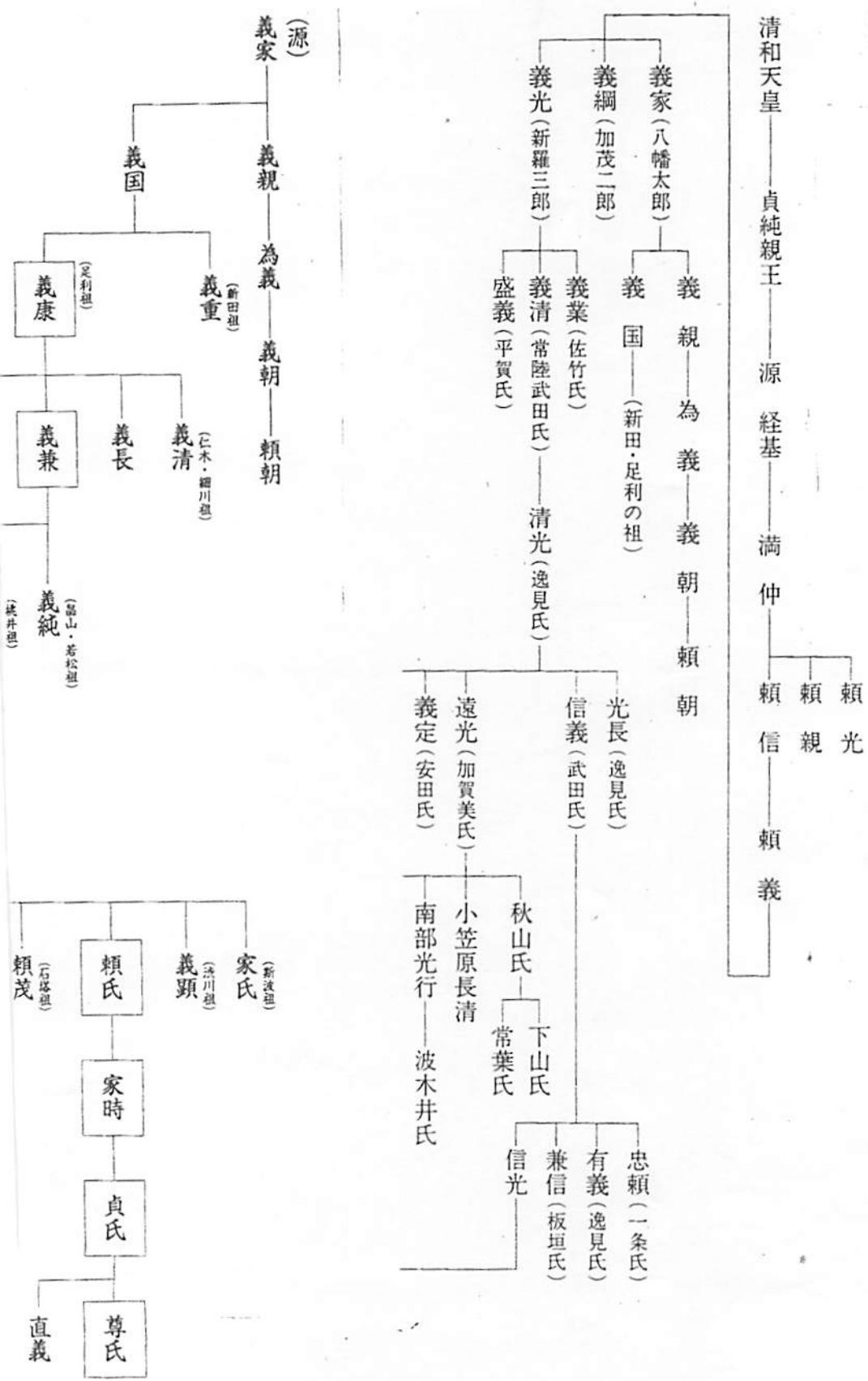
寛文八(一六六八)年の創建。足利学校のシンボルとして江戸、明治、大正、昭和そして平成へと継承されています。

杏壇門

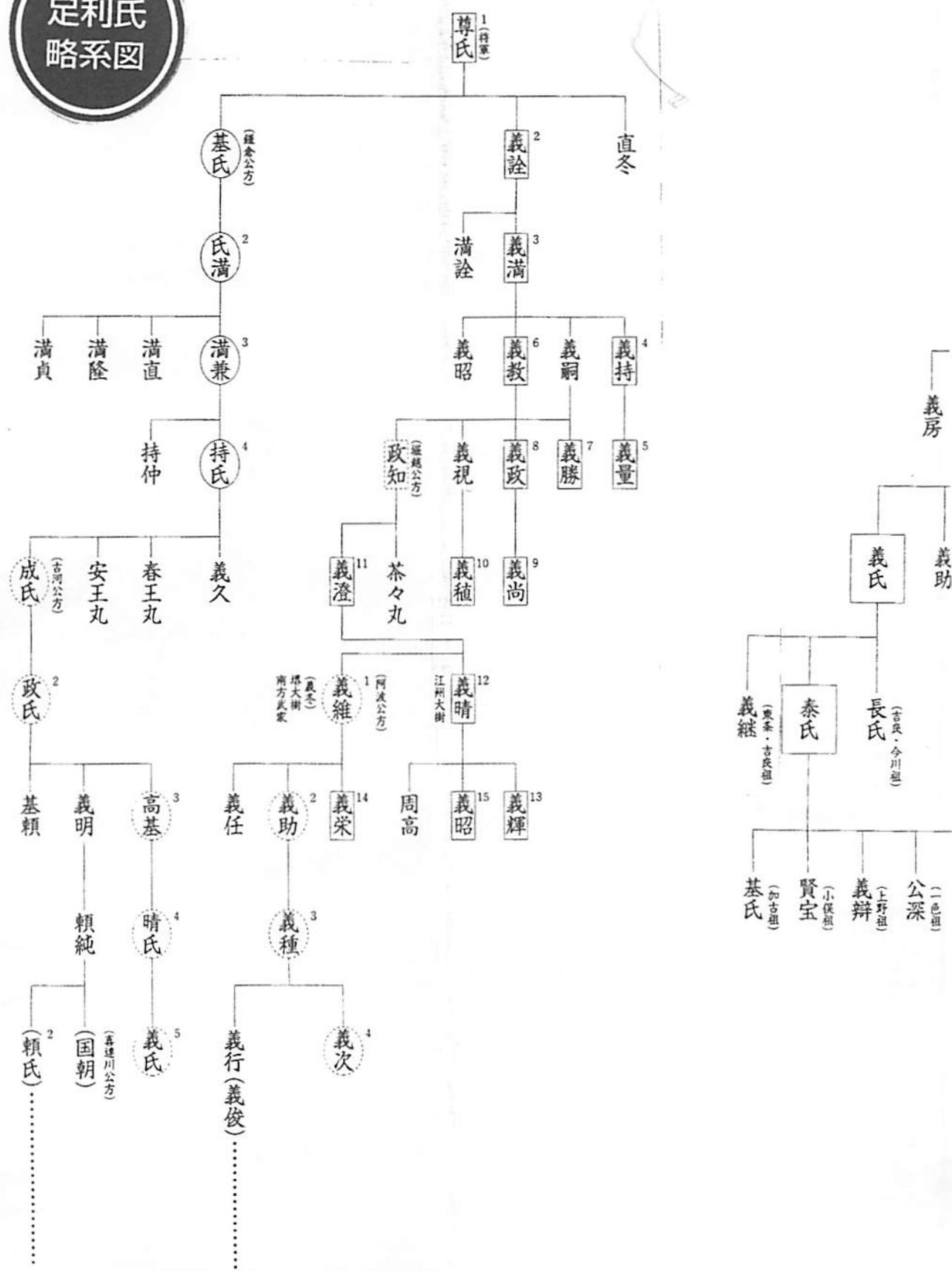
寛文八(一六六八)年の創建。明治二十五(一八九二)年に町の大火の飛び火により屋根門扉が焼け、同三十年代に再建したものです。杏壇は孔子が弟子たちを教えたところに、杏の木が植えられていましたことに由来しています。



清和源氏系図



足利氏
略系図

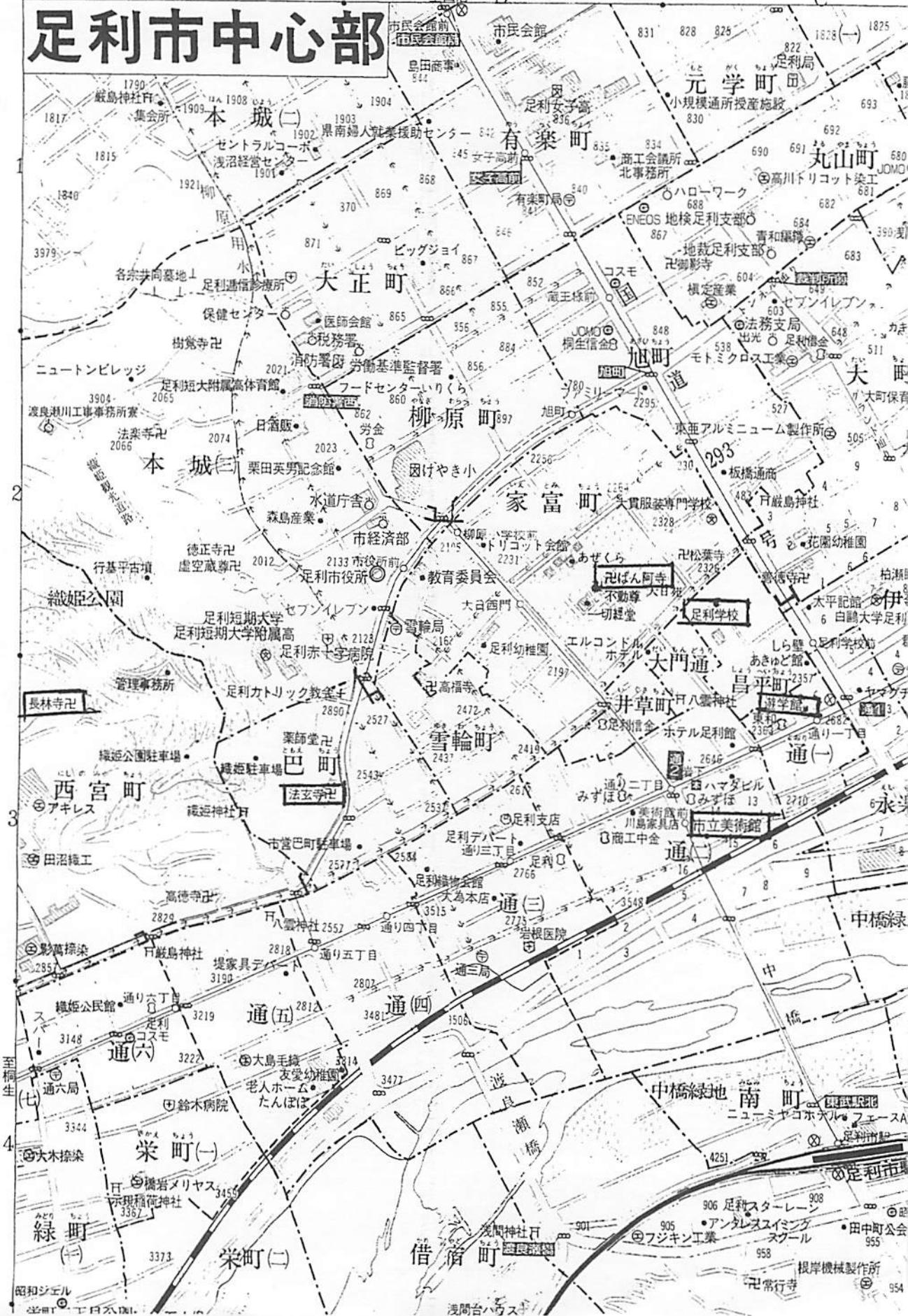


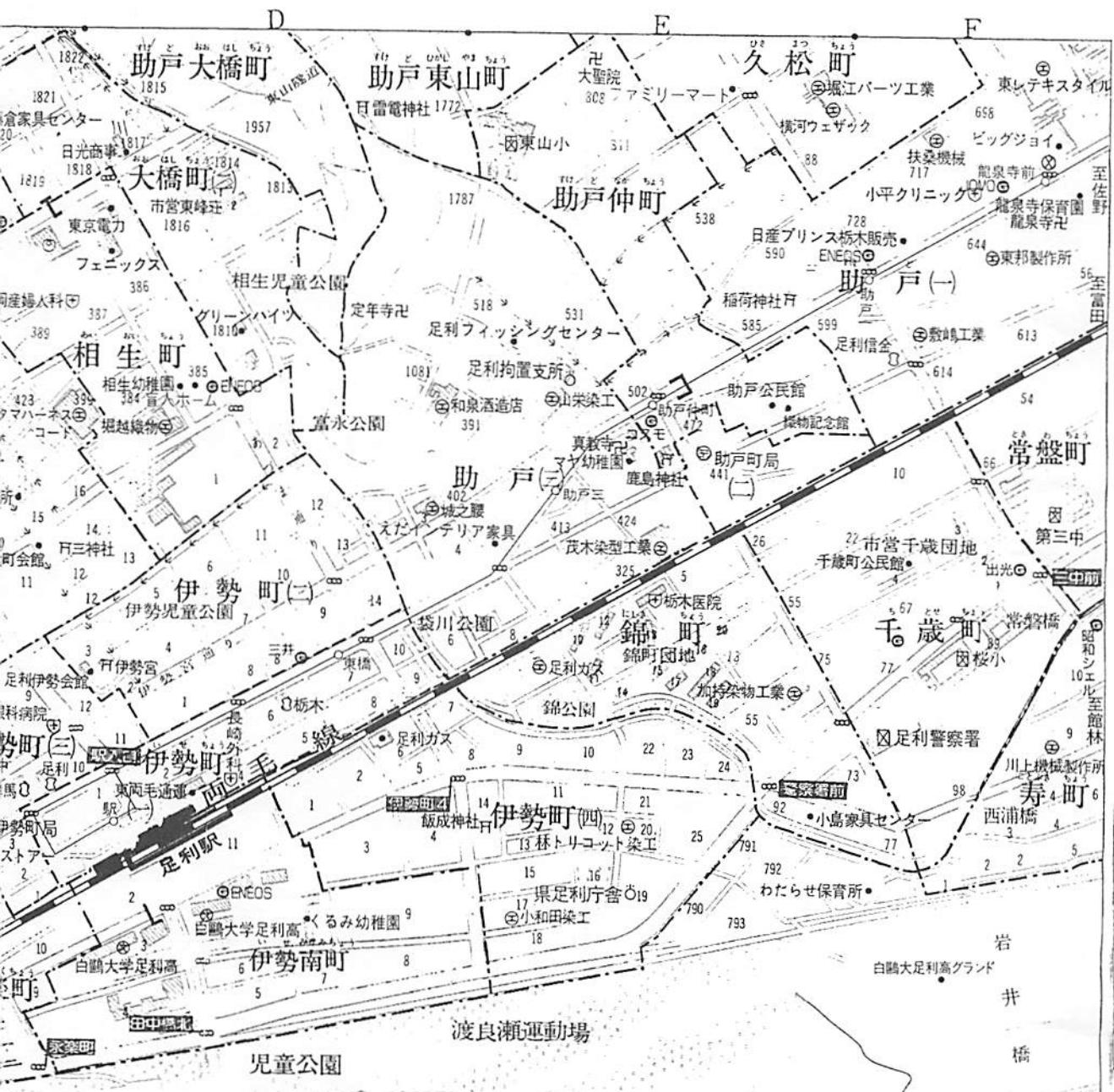
足利市中心部

A

至田沼

6





史跡 足利氏宅跡（鎌阿寺）



史跡

足利学校跡

